



語学教育研究室より

ユーロ危機でもなぜドイツは強いのか

－ Made in Germany の話－

文学部 鈴木康志

現代の私たちの生活には外国のものが溢れています。ただ、外国と言えばアメリカを、ヨーロッパではイギリスやフランスを思い浮かべる人が多く、ドイツはイマイチかもしれません。現在ユーロ危機にあって、ドイツの力が再認識されるようになりましたが、実は意外に私たちの身の回りに、ドイツの力を表す *Made in Germany* のものが溢れています。今回はその一部を紹介してみたいと思います。

少し前の話になりますが、あるラジオ番組で、女子大生が選ぶ「外車ベスト5」というのがありました。結果は1位、ベンツ、2位、BMW、3位、アウディ、4位、ポルシェ、5位、オペルでした。これらに共通するのはすべてドイツ車ということです。ディーゼルエンジン、ジェットエンジン、液体燃料ロケットの発明がドイツであるように、ガソリンエンジンによる自動車の発明もドイツです。しかもゴットリープ・ダイムラー（1834～1900年）とヴィルヘルム・マイバッハ（1846～1929年）のコンビとカール・フリードリヒ・ベンツ（1844～1929年）が、直接の交際がなかったにも関わらず、ドイツ、シュトゥットガルト近郊で同じ時期（1880年代）に別々に世界初の自動車を製造、開発したことは驚きです。ダイムラー社は1926年ベンツ社と合併し、ダイムラー・ベンツ社が誕生します。ドイツではベンツのことを「メルセ（ツェ）デス（Mercedes）」といいます。これはオース

トリア・ハンガリー帝国の外交官であり、実業家でもあったE.イエリネクが、ダイムラーの車を販売するとともに、宣伝のためレースにも参加させ、その際ダイムラーの車に、自分の娘の愛称をとってメルセデスと名づけたことによります。

BMWは、ドイツ語発音でベー・エム・ヴェー、*Bayrische Motoren Werke*（バイエルン、エンジン製造会社）で作られる高級車です。ミュンヘンにある本社は、エンジンのシリンダーを模した円筒形を組み合わせた有名な建物ですが、BMWは現在でも最も人気のある車ではないでしょうか。BMWとともに人気が高いのがフォリングのエンブレムで有名なアウディです。Audi とは、この車の創業者アウグスト・ホルヒの名のホルヒ（Horch）が、「聞く」を意味するドイツ語 *horchen* の2人称単数（du）に対する命令形にあたり、それを響きのいいラテン語にしたものです。

ポルシェを語るにはフェルディナンド・ポルシェ（1875～1951年）に触れなければなりません。最近ハイブリッドカーや電気自動車の実用化が話題になっていますが、今から100年も前に、ポルシェによって一種のハイブリッドカーや電気自動車が開発されていました。ポルシェが生きた時代はナチスとも重なり、武器製造にかかわるなど負の側面もあります。ポルシェはヒトラーの依頼を受け、国民の（フォルクス）車（ワーゲン）を作ります。こうしてできあがった車は、ケーファー（ビートル）の愛称で親しまれました。ただ、戦争のためこの車は戦前国民に届きませんでしたが、ヴォルフスブルクの工場は、その後ヨーロッパ最大の自動車メーカー、フォルクスワーゲンになります。



ドイツ車のエンブレムの図

ご存じのように豊橋はフォルクスワーゲン社の日本における拠点です。女子大生のアンケートにフォルクスワーゲン社の車が入りませんでした。今ならかわいい「ニュービートル」や「ゴルフ」、「ポロ」などもベスト5にあがったかもしれません。ところで、ポルシェの一人息子フェリーは、シュトゥットガルトでポルシェ社を引き継ぎ、「ポルシェ・カレラ」など熱狂的なファンをもつスポーツカーを生み出すことになりました。

ちなみにこれらのドイツ車は日本のテレビでも宣伝されていますが、しばしばドイツ語が用いられています。例えばベンツでは「Das Beste oder nichts (最良か無か)」、これは創業者ダイムラーの言葉(社是)で、作るなら最良のもの、妥協はダメといった意味です。またアウディは「Vorsprung durch Technik (技術によるリード)」、オペルは「Technik, die begeistert (感動させる技術)」など、ともに世界最高の車を作り出す、モノづくりの国ドイツをよく表しています。BMWは「Freude am Fahren (駆け

抜ける喜び)」「Freude ist BMW (喜び、それはBMW)」など、走る「喜び」に焦点があてられています。

ドイツ車について語ると切りがありませんので、今度は小さなもの「ステーションナリー (文房具)」に目を向けてみましょう。文具好きの方はご存じと思いますが、ドイツは文具王国です。例えばスティックのりがドイツの発明であることをご存じだったでしょうか? 「プリット (Pritt)」は1969年に(西)ドイツのヘンケル社 (Henkel) で発明されました。1970年から日本でも売り出されますが、発売時のキャッチコピーは「ドイツから来た接着革命」でした。また鉛筆も初めて商品化したのは、1761年創業で、昨年250周年を迎えたファーバー・カステル (Faber-Castell) というドイツ企業です。この会社は画家デューラーを生んだニュルンベルク郊外のシュタインという町にありますが、鉛筆の形をした建物、色鉛筆のようなカラーの窓が会社をよく表しています。この会社は1851年、鉛筆の長さ、太さ、硬度の世界基準となる六角形の記念碑的な1本を作ります。さらに1905年深緑色がトレードマークの有名な「カステル9000」を作り、この鉛筆には中世の騎士が馬上試合をしている図案が組み込まれました。これがその後ファーバー・カステル社のロゴとなりますが、騎士が持っているのは剣ではなく、鉛筆です。「鉛筆 (ペン) は剣より強し」なのでしょうか、きっとみなさんもファーバー・カステルの、美しい色鉛筆シリーズなど使われたことがあるのではないのでしょうか。

ニュルンベルクはワーグナーの楽劇の「マイスタージンガー」やクリスマスマーケット、おもちゃの町としても有名ですが、ドイツの文具職人たちの町でもあります。文具メーカーとしてあまりにも有名なスワンスタビロ (Schwan STABILO) やステッドラー (STAEDTLER) も

ニュルンベルクにあります。Schwan はドイツ語で白鳥ですが、これがスタビロのシンボルマークです。白鳥の形をした鉛筆削りなども人気ですが、やはりスタビロは美しいペンです。特に「スタビロボス」は世界最初の蛍光マークペンです。手ごろで、カラーヴァリエーション豊富なフェルトペン「ポイント 88」はみなさんも使われていると思います。ローマ神話の軍神マルスをシンボルにしたステッドラーは鉛筆、ボールペンなどが有名ですが、色鉛筆のブランド、ステッドラー 24 色セット「エルゴソフト 24c」なども素敵です。ドイツにはその他にも有名な文具メーカーとして、万年筆のモンブラン (Montblanc) やペリカン (Pelikan)、機能美と使い易さを重視した筆記具



ドイツの文具の写真

メーカーのラミー (LAMY)、製図ペンのロットリンク (rotring)、プラスチック文具のコジオル (Koziol)、三角太軸鉛筆や消しゴムのリラ (Lyra)、鉛筆削りのクム (Kum)、組み立て文具のヴェルクハウス (Werkhaus)、アルミ素材のヴェルター (Wörther) などがあります。

これらは優れた Made in Germany のほんの一部にすぎません。例えばスポーツ用品の「アディダス (adidas)」と「プーマ (Puma)」はドイツ人の兄弟ですが、Puma には文房具もありますね。また、システムキッチンがドイツ生ま

れですが、キッチン用品でもドイツはブランド大国です。例えば、調理機器の「フィスラー (Fissler)」、刃物はツヴィリング (双子) マークの「ヘンケルス (Henckels)」、食器の「WMF (ヴェー・エム・エフ)」、ポットの「アルフィ (Alfi)」、コーヒーマーカーやフィルター「メリタ (Melitta)」、キッチンスケールの「ツェーレンレ (Soehnle)」など Made in Germany のものに溢れています。

ドイツは、世界ブランドの車に加え、製菓のバイエル、電気機器のジーメンス、化学コンツェルンの BASF、産業機器のボッシュなど有名な企業が多くありますが、このような大企業とともにドイツの経済を支えているのは優秀な技術力を持ち、目立たない分野で世界一のシェアをもつ多くの中規模企業です。このようにドイツは大企業から中規模企業まで優秀で、世界的な競争力を持っています。ここがユーロ危機にあっても、あるいはユーロ危機によるユーロ安ゆえに、輸出力を持つドイツが強くなる理由の一つがあります。ドイツは、バッハ、ベートーベン、ブラームスなどのクラシック音楽、ゲーテ、シラー、トーマス・マンなどの文学、カント、ヘーゲル、ニーチェなどの哲学など「文化の国」であるとともに、世界でも群を抜く「モノづくりの国」でもあるのです。

お勧め参考文献

1. ヴォルフラム・ヴァイマー編著 (和泉 雅人翻訳)
『ドイツ企業のパイオニア』1996 年 大修館書店
2. 浜本隆志『モノが語るドイツ精神』
2005 年 新潮社
3. 熊谷 徹『あっぱれ技術大国ドイツ』
2011 年 新潮文庫